

地区別懇談会について

開催状況

『北部地区町内会連絡協議会』

日 時:平成21年12月12日(土) 13:30～15:30

場 所:市民活動センター 3階 大会議室

出席者:町内会:33名

『東部地区町内会連絡協議会』

日 時:平成22年1月21日(木) 18:00～20:00

場 所:マリゲート塩釜 2階ベイサイドルーム

出席者:町内会:17名

『西部地区町内会連絡協議会』

日 時:平成22年1月30日(土) 15:00～17:00

場 所:ふれあいエスパ塩竈 学習室

出席者:町内会21名

『南部地区町内会連絡協議会』

日 時:平成22年1月31日(日) 13:30～15:00

場 所:東玉川公民館 図書室

出席者:町内会17名

北部地区町内会連絡協議会との地区懇談会

日 時 平成 21 年 12 月 12 日(土) 13:30～15:30

場 所 市民活動センター 3 階 大会議室

出席者 北部地区町内会： 33 名(出席者名は別紙名簿のとおり)

塩竈市 : 市長、政策調整監、市民生活部長、次長兼政策課長、市民課長、政策課課長補佐兼企画係長、市民課協働推進室長、高橋主査、報告者

司 会 市民課協働推進室長

1. 開会

2. 市長挨拶

3. 会長挨拶

4. 地区懇談会

- ・ 第5次長期総合計画取り組み状況
- ・ 意見交換

5. 出席者からの意見

- ・ 神社の広大な境内を活用した、観光客を足止めする方策、購買力の向上を図る方策を検討すれば、塩竈のPRにもなり、財政の活性化にもなる。
- ・ 塩竈は情報の発信が遅く、判りにくい。市が長期計画を策定しているということを熟知している人はあまりいないと思う。1ヶ月に1回配布される市政だよりが唯一の情報。(市政だより)立派に出来ているが字が小さい。
- ・ 石巻市には「河北新報」と「読売新聞」の他に「石巻新聞」がある。大崎には「大崎タイムス」、気仙沼には「気仙沼河北」と毎日のように情報が提供されている。観光にしても医療にしても情報の早い伝達が大切なので検討していただきたい。
- ・ 今年の4月「塩竈ホテルの里保存会」を設立しました。伊保石公園で昨年3匹だったホテルが今年40～50匹になっていた。1000円会費をいただいて現在52名の会員がいますが、その情報が宣伝されてなく、ほとんどの人が知らないなので看板を作りたい。
- ・ イオンの脇の堤防(津波対策)に桜の木を植えるというのはどうなったのか。
- ・ 離島の活用、例えばフィッシングランドなどを作り宣伝すればお客様も来るのではないか。
- ・ 寒風沢、野々島には魚もたくさんいるので海の底も見える船を出す。
- ・ 寒風沢にもホテルがいるので活用を検討していきたい。
- ・ 伊保石公園を流れている川は水道水をオーバーフローしたものが流れているので苔が生えない。オーバーフローしていない水を少し分けて流していただければホテルも増加する。
- ・ 今野屋の跡地の利用は喜ばしい、市長と同意見である。そこにバスを止めて本町を歩かせれば活性化につながる。ただバスの運転手が老番館の前にバスを止めて鮎屋に行くので駐車場の表

示をわかりやすくして欲しい。

- ・ 桂島を気仙沼の大島のようにレクリエーションのような土地にするのであれば、菜の花だけではPR不足。海もあるので避暑地のようにして宣伝する。ハイキングに行った時、歩道が整備されていなかったのが歩道の整備もして欲しい。
- ・ 七曲(塩竈神社)の歩道の整備と樹木の剪定をしてはどうか。
- ・ 病院関係は市長が権限を持っていると活性化できないという話が出た。
- ・ 広報紙は裏から読んで下さいと進めている(塩竈市の情勢がわかるので)。高齢化社会なので字を大きくしてもらいたい。
- ・ 今、「街はこのようなことをしています」とわかるように「総合計画」概要版等を各町内会会長にいただきたい。また我々を育成してほしい。
- ・ 10年後も見据えた細かい計画を立てているので、市のやり方全体を見て自分で身に付けながら地域と接していきたい。第4次長期総合計画の課題も5次の中に入っていく。「学力向上の取り組みの評価」「青少年の生命の尊重」「塩竈人の育成」「教育関係の施策」「個性のある都市をつくる」「人づくり」など、どれも大切なことが含まれているので今日は勉強させてもらいました。
- ・ 市の現状・将来に町内会の皆さんが心配している。町内会が真剣に生の声で市と協議する場に議員の声が届いて来ないことが、仕組みづくりにおいて果たしていかなものか。議会で真剣な協議がされているかどうか、懇談会の生の声が議会に届いているのか疑問である。
- ・ 壱番館の屋上や海上保安庁の第二合同庁舎の屋上に上がる機会があり市内を見ました。北浜の港公園、一森山、庚塚、伊保石公園など、意外に町の中に緑が多いと感じたので、この緑を減らすことなく、活かした計画にしていきたい。
- ・ 表参道脇の駐車場の活用を。
- ・ 行政の方から町内会に出向いて説明してもらえる機会を設けて頂ければ、市民は市政について理解を深めることが出来るのではないかと思います。ただ町内会も数が多く大変だと思うので2〜3年で一巡できるペースでお願いしたいということを考えてみました。
- ・ 最近うちの団地、地域で離職者・仕事が無い人が増えている。生活保護を受ける人の割合が塩竈市は高い。昔は地場産業(加工屋・造船業界)が発達して職場が身近にあったが、最近では衰退してきたのが原因だと思う。日本全体が就職難であることは確か、予測不能な離職者が結構いる。地場産業を今後どう考え大きくしていくのか。
- ・ 塩竈として観光産業への補助と支援の方針があるのか。

東部地区町内会連絡協議会との地区懇談会

1. 日 時 平成22年1月21日(木) 18:00～20:00
2. 場 所 マリンゲート塩釜 2階ベイサイドルーム
3. 出席者
東部地区町内会:17名(出席者名は別紙名簿のとおり)
塩竈市 :市長、総務部長、市民生活部長、政策調整監、政策課長、市民課長、
:市民課協働推進室長、鈴木主査、報告者
司 会 市民課協働推進室長
4. 議事
 - (1)開会
 - (2)市長挨拶
 - (3)会長挨拶
 - (4)地区懇談会 第5次計画の進行状況説明
5. 出席者からの意見

(町内会)

○主要課題については、抽象的すぎて具体性がありません。塩竈市の産業を育てるとありますが、具体的な話でないと煮詰めようがありません。

(町内会)

○活力づくり分科会の提言はまさにその通りで、どう実行していくのか。塩釜港は今の海運業の流れに追いついておらず、船は仙台港に取られ、行政の対応が今後の課題です。また、「楽しめる観光地の形成」は同感です。塩竈市は100万都市仙台市の隣接であり、喜んで遊びに来ていただけるまちづくりをどのような形で進めていくのでしょうか。

(市長)

○商店街の活性化は3ページに記載しております。従来の第1次、第3次産業という区分けでなく、それぞれ連携できる取り組みを市が仲立ちをするべきです。産業活性化には、交流人口の拡大など魅力あるまちづくりが必要です。

○港湾は、数十年前は年間670万tの取り扱いがありましたが、平成21年では約300万tで60%減少する見込みです。現在の主力商品は石油で、木材も仙台港に移りセメントや家畜の餌なども近い将来仙台港にシフトされると想定されます。

○全国、世界的な輸送の流れに対応してなく、以前は1万t程度の船が主力でしたが、今は2万から5万tの貨物船に移行しています。仙台港は岸壁が空くの待つ必要がありますが、塩竈港はいつでも入れます。なお、県に依頼し昨年より岸壁の修理を無償で実施していただき、岸壁利用の際に一定の感謝料を支払う取り組みをスタートさせました。国内の陸上輸送は慢性的な渋滞状況であり、港と陸上運輸を効率的に組み合わせ、輸送コストの削減や渋滞に遭うこともなく、輸送革新になると考えます。その新たな可能性を地道に開拓していきます。

○楽しむ観光の形成について、塩竈のまちの魅力は海で、港湾都市を十分に満喫し、浦戸への足を運んでいただき、ゆったりとした時間を過ごしていただきたい。埋もれた財産を市民の皆さんの手を借りながら磨いていきます。素晴らしい食文化もあります。塩竈神社に代表される歴史を感じ、仲卸市場で塩竈ならではの丼を食べていただく。飲食店がたくさんあります。今ある財産にしっかり磨きをかけながら、団体客だけでなく、少人数でも魅力を満喫したいという方々をお呼びして、リピーターとなっていただくことが目指す観光政策です。

(町内会)

○漁業は衰退し、さんまはスーパーで1匹50円の時代です。今後、漁業は成り立つのかという問題が出てきており、第一次産業は明るい産業ではないと考えます。

○製造業は県の統計調査でも10年前は361ヶ所の工場でしたが、平成20年度は152ヶ所と58%低下しています。従業員数は5879人が、平成20年度は3486人で60%減。売上金額は、1330億円が770億円まで落ちています。

○この状態では、若い人の働く場所がなく商業も廃れます。商店街は本町でもシャッターが閉まって活性化されていない。買う人がいなければ商業も無理です。さらに仙台新港に商業施設の集積が進んでいます。

○漁業や製造業、商業も衰退した場合、塩竈市は何で生計を立てていくのか。思い切った政策を打ち出す必要があります。総合的な計画では良くないと考えます。塩竈市は市外から見れば、住みたいと思う人は1割に満たないと考えます。土地の値段を見れば分かります。市民の生活と財産を守るのが市長の役目ですが、生活は守っていただいているが、財産が下落傾向です。塩竈市に魅力があるのでしょうか。もう少し現実的な計画を望みます。

(市長)

○第一次産業の後は大きな課題ですが、生き残る方策はあると考えます。一つは、食糧自給率です。世界の人口が約60億人ですが今後100億人を越えます。その場合、日本に輸出している国がその時にも同様という保障はありません。少なくとも、一定程度の食糧自給率は確保されるべきで、これが国の基本です。国全体は40%程度ですが、塩竈市に置き換えると約60%あります。

○魚は嗜好品的な扱いですが、貴重なエネルギー源です。決してビジネスだけではなく、自分たちの食糧をどうするか考える必要があり、第一次産業を大切にしない国は滅びます。

○魚市場は最盛期500億円の水揚げが100億円を割っています。平成21年は83億円で、大西洋のクロマグロ漁獲規制が実行された場合、80億円も考えられます。今後どう生き残るのか漁業組合の方々と真剣に話し合いをしております。水揚げの減少に歯止めをかけるため、マグロ一辺倒で良いのか。市民の方々に新鮮で、安く、おいしいものを食べられる魚市場にしていきたいと考えています。

○製造業についても、国は臨海型の工業に大きく比重をかけていました。鉄鋼、セメント、石油、木材とすべて臨海型工業としてやってきました。本市でもその産業が衰退するにつれ、地価が減ってきて工場数も減ってきました。

○言い訳になりますが、約17平方キロの市域に5万8千の人口があり、東北一の人口密度であり、結果として住宅に使える土地がありません。二つ三つ新しい産業も芽生えてきていますが、全体として実感いただけない状況を痛感しております。

○次期計画では新しい産業を芽生えさせることが大きな課題です。本町にアパレル産業の新しい会社を誘致しましたが、地元と直接的な繋がりはありませんので実感いただけないと思います。今後の新しいビジネスのモデルになると思います。

○塩竈商業圏が以前ありましたが、平成11年に消滅しました。代わりに利府町や多賀城市に移り、その周辺地価が上がっています。商業圏と土地の価格は連動しています。海辺の賑わい地区も新しい形が出来て、この地域の地価が塩竈市の中では上がってきました。それらの商業の活性化の為に交流人口を増やしていきます。定住人口は残念ながら困難です。

○昨年、DCキャンペーンに取り組み、県内でも塩竈市は他から羨まれる成果を上げました。塩竈が住みたいまちと言っていただけるように努力をしております。100円バスもその一つであります。

(町内会)

○平成23年度の財源不足が51億円と聞いておりました。財源が無い状態で長期総合計画が実行できるのでしょうか。具体的なものが無いと、長期計画は無理と考えます。

○商店が少なくなっておりますが、近隣市町と比べると塩竈市は医療機関が多い。塩竈市を再建するには医療のまちを構築することも一つと考えます。その場合、現在の市立病院では無理があるので、旧ジャスコ跡地への移転により患者が増加すると思います。それくらいの発想も必要です。

(市長)

○市の財政は、第2の夕張市になるのではと新聞報道されたこともあり、近い状況であったことは事実ですが、行財政改革により財政の健全化に取り組んできました。昨年の市議会で平成20年度の決算報告をしましたが、国が定めた指標、赤字が無く、将来の負担比率、借金の借り入れの状況などの条件をクリアできました。そのために下水道料金や国民健康保険についても値上げさせていただきました。

○また、塩竈市には土地開発公社があります。高度成長期に土地の価格が上がっていた時代に、将来公共工事をする際、早い時期に買っておけば比較的安価な投資で整備できるので、設立した経過があります。漁港の拡張や道路整備、福祉施設などの目的で約30億円の土地を買っていましたが、近年はいわゆる塩漬け土地となっていました。これも100%健全化が図られたわけではありませんが、借金は20年をかけてしっかり返済していけます。国が補償し塩竈市に貸付をしてもらっているので、しっかりした財政再建を作って、心配いただくなくても大丈夫な状況になりました。

○平成15年に市長に就任した際は、847人の職員でしたが、平成21年4月には667名で約180名の減となりました。それでも多い方ですので、今後も職員定数削減を続けます。また、予算額は平成15年は200億円でしたが、現在は180億円で20億円減りました。市民へのサービス低下ではなく、内部の無駄を省きました。

○市立病院は今年度黒字を計上できる見込みです。職員が一体となって取り組み、サービスは低下しておりません。救急患者も今まで以上に受け入れております。市民の方を待たせないように予約制をスタートさせました。今年度以降も黒字を計上できるよう頑張っていきます。

○公共施設の民間委託ですが、例えば体育館は塩竈市体育協会が指定管理者として、全面的に管理、運営をしており、利用客数は増加しています。マリゲート塩釜も塩釜港開発株式会社が運営をしており、費用はこの収益で賄っています。今後も市が直接やるべきものと、民間にお願いした方が良いものを選別しながら、市民の方々が使い勝手の良いものにしていきます。総合計画での直接の内容にはならないかもしれませんが、具体的にどう実施していくかという実施計画を確認していただけるよう盛り込んでいきます。

(町内会)

○協働推進室と商工観光課は意見を交換して、商工会議所などとの連携をどのようにしているのでしょうか。どのようにバックアップをしていくのか。行政の縦割りではなく、様々な連携をして仙台市などを巻き込んで実施していけばよいと考えます。

(市民生活部長)

○協働推進室と観光の関連ですが、協働推進室は、町内会に関わる市役所の窓口として、これまで集会所などの観点から関わっております。町内会からの相談に対して各課で対応します。協働推進室が市民の窓口として、市民の方々が参加できる基礎作りをしております。

(市長)

○観光のみならず、福祉や産業振興なども広域的な切り口で考えていかなければ、今から先はなかなか難しい問題です。例えば2市3町に限定しても、今後を考えたら楽観できる状況ではありません。広域観光ルートの提案や交流人口拡大の為にイベントの開催時期を同一にしてみるなど様々に取り組んでおります。

○合併の思いはありますが、なかなかまとまりません。10年先を考えればこの問題は避けて通れないと考えております。

○他には、世界文化遺産の件で東松島市との交流が生じ、廃棄物の関係では大郷町との交流が新しく芽生えてきました。産業振興の分野では宮城野区、DCキャンペーンを通じて蔵王町、名取市などと交流ができてきたので、限定的な考えではなく可能性を拡大していきます。

(町内会)

○現計画の総合的な達成度はどれくらいでしょうか。塩竈市の将来人口の減少を見て、これからの計画達成が益々難しくなると考えます。また、計画が抽象的です。

(市長)

○特に若年層の人口減少は責任を感じています。人口減少をマニフェストに掲げて来ましたが、この間、若年層を定着させる政策に思いあぐねているところです。仙台市の若い方にどこに住みたいか聞くと泉パークタウンと答えます。緑が多い、ショッピングセンターが近いなどまち全体の環境があげられます。

○それを塩竈市に置き換えると、住環境が提供できる場所は限定され、「ブライツヒルズ」が該当します。町内会長も35歳くらいで、平均年齢が30代という住宅です。そういう環境をつくと集まってきやすいということを感じており、若い方々に定住していただくためには住環境は大切。そういう環境をどこに提供できるかとなるとなかなか場所がないのが実態です。

(政策課長)

○達成度について、現計画をそれぞれ評価しております。例えば、1-1「安全に暮らせるまちづくり」で3という評価をしております。さらにその下に事業項目があり、それらを全体で評価しました。相対的に4段階の評価ですが、自分の個人的な見解は3.5ぐらいだと思います。

○行政もこの10年間いろいろな努力をしてきました。塩竈市が歴史的に戦後かなり急激な成長を遂げ、高度成長期を乗り切りながら人口が集中し、2市3町の中心だった生活圏がシフトしながら周辺の市町に人口が流出していきました。

○それが経済や全体の市民生活にも影響していると考えます。地域経済についても、様々な塩竈市の取り組みはしておりますが、国際的な漁業規制など、塩竈市だけで対応が困難な課題もあります。今後の計画にあたりましては、その点も踏まえながら塩竈らしい産業づくりをしてまいります。

(町内会)

○旧造船所跡地の整備についてはどうなっているのか教えていただきたい。

(市長)

○この課題はチリ地震津波が契機で、津波により大きな被害があり、3m60cmというチリ地震津波の高さで壁を作りました。

○50年近くたちましたが、塩竈を津波から守るためには全部を壁で囲わなくてはなりません。当時から対策を進めてまいりましたが、一方では造船業を営んでいる方々がいてなかなか進みませんでした。

○現在8社のうち7社が造船所を移転、廃業していただいております。平成22年度からは堤防の整備に入りますが3年程度はかかる予定です。

○これまでとの違いは、盛り土になっていて幅が40mになりますので、地域の方々が運動や散策、ジョギングをしていただくような海辺空間を堪能していただけます。親水空間としてお弁当を食べながら海を楽しんでいただく、貸しボートなどの話が広がっております。津波から地域を守り、新しい土地空間が提供されると考えております。

西部地区町内会連絡協議会との地区懇談会

1. 日 時 平成 22 年 1 月 30 日(土) 15:00～17:00

2. 場 所 ふれあいエスプ塩竈 学習室

3. 出席者

西部地区町内会： 21名(出席者名は別紙名簿のとおり)

塩竈市 : 市長、市民課協働推進室長 総務部長 市民生活部長 健康福祉部長
: 産業部長、建設部長、教育部長 総務部次長兼政策課長、市民生活部市民課長
: 市民課協働推進室長、鈴木主査、報告者

司 会 : 市民課協働推進室長、

4. 議事

(1)開会

(2)市長挨拶

(3)会長挨拶

(4)地区懇談会

・取り組み状況の説明

5. 出席者からの意見

(町内会)

○市長をはじめ皆さんが懇談会の場を設けていただいたので、欠席の方は代理で出していた良かった。

○市内は東西南北、浦戸と分かれており、内容によって計画の中で、地域ならではの内容や出来る出来ない範囲、それから一緒に実行していく部分もあると考えます。細かい部分は実施が困難なところもあるので、その辺を検討していただければと思います。

(政策課長)

○塩竈市は 17 平方kmの狭い地域ではありますが、町内会が東西南北と分かれています。それぞれ特徴があります。

○市全体としてどのようにしていくという方向性が、長期総合計画になります。その基本計画の中で各分野や地区での取り組みを表していきます。今回は、前段の地区懇談会でありますので、改めて懇談会を設けさせていただきたいと考えております。

(総務部長)

○案内の件では、ご指摘いただきましたように、意見をいただく貴重な場でありますので、今後は、会長さんの都合つかないときは代理の方をという案内をさせていただきます。

(町内会)

○資料を早めに送っていただいたので、内容を読ませていただき、大体掌握できました。

○あまり高齢者の方に総括の話をしていても分からない部分もあると考えます。我々もわからない。町内会にきて説明いただかないとわからない。

○これからは、高齢化社会に対応したものが必要であり、高齢者に対応する支援を考えていただきたい。また、自主防災組織について、まだ行っていませんので、市の説明が欲しいです。

(政策課長)

○お話の通り文字だけでは、分かりづらいので、写真の入った「塩竈市の取り組み」という資料を配布させていただきました。町内会での説明会は、要望があれば伺います。

(健康福祉部長)

○長期総合計画の中で高齢者対策は重要と考えております。高齢者がいつまでも元気でいられる政策が大切です。介護を受けている方は数としては少数ですが、特別のメニューにより介護状態にならない予防を中心に元気な高齢者にしてまいります。また、一人暮らしの高齢者に対してどうするか、計画の中で整理をまいりますので、ご意見いただきたいと考えております。

(総務部長)

○自主防災組織は市長の目玉で懸命に取り組んでいます。現時点では町内会の数では4割以下ですが、54%の世帯で自主防災組織が結成された町内会に入っている状況です。
○21年度には11の町内会で結成されました。市役所の防災安全課で担当しています。皆様の都合に合わせて、出向いて説明していますので、町内会で組織を結成される際に、必要な物資や支援をいたしますので、気軽に声をかけていただければと思います。

(市長)

○資料1では第4次計画の総括をし、市民懇談会などで塩竈市には課題があるということを系統的に整理しました。
○この懇談会では総合計画の話だけでなく、例えば施設に入りたいが入れない、これから高齢化率が上がっていく中でどのように考えているのか、というような話でも結構です。
○常日頃、地域で皆様が生活される上で、このような問題があるという話を遠慮なく発言していただければと考えております。
○北部地区の懇談会で広報誌の字が小さく読みづらいという話がでましたので、早速作業に入っています。ご意見をいただき、やれるものは率先して実行し、地域で元気で暮らしていただけるように、というのが趣旨でありますので、遠慮なく意見を述べて下さい。

(町内会)

○各地区に市の職員がいますので、地区民として参加し、業務で得た知識を町内会の中に話していただきたい。昨年介護の関係で、市の職員の方がその地域の声がけ世帯については、誰がどこに寝ているとか、そういう情報を教えていただいたという話を聞きました。地域にはそういう部分も大切です。市の職員の知識を地域に活かしていくためには、積極的に地区の懇談会に出席して地区民として経験を話していただきたい。
○声がけをする世帯を調べるのは、民生委員を中心にした調査でしたが、実際に声をかける側の人たちの組織をどう構築していけばよいのかという点で迷っています。そのことについても必要な話があれば教えていただきたい。また、健康推進委員さんの活動をもっと積極的に広報していただき、地域の活動に反映できるようにお願いします。

(市長)

○ご指摘の件は大きな課題と考えております。市の職員は地域の一員でもありますので、様々な地域活動に率先して参加してほしい話は様々な所でしております、スケジュールの調整もありなかなか参加できていない現状です。
○地域には、災害時の避難場所がありますが、何かあったらその場所に真っ先に駆けつけるのはその地域にいる職員としております。皆さんを誘導することを優先にと言っています。1避難所あたり3~4名の職員を配置しています。防災訓練の時はそのことを紹介していますが、もっと地域の方に情報を発信しなければならぬと考えております。

(町内会)

○まちづくりの市民参加の促進について、「積極的に参加したい」「できるだけ参加したい」人が多いので、広報誌でも紹介していますが、もう少し裾野を広げ、回覧板でもよいのもう少しPRしたらと考えます。情報発信をさらに浸透させるためには、さらなるPRが必要です。

(政策課長)

○市民協働はこれからのまちづくりにとても大切です。市民懇談会でも、みなと祭りは全市参加で盛り上がり、大きな市民活動のひとつの指摘がありました。青年4団体が観光マップを作成し、「塩作り」など市民活動そのものは盛んと考えています。しかし、それが全体に広まっていないので市民協働をどう進めるべきなのか、具体的な事例を出して懇談会的なものを行ったほうがいいのか、今後検討させていただきます。市民協働推進室の方でいろいろな情報をもっているのご利用下さい。場所は本町にあります。

(教育部長)

○教育委員会は社会教育、生涯学習と皆さんとの関わりは多く、社会や地域の問題を考える機会をできるだけ作っていきます。今後は町内会とも連携し、情報提供をいただく機会も数多く作るようにしてまいります。

(町内会)

○防災について、町内会では自主防災を立ち上げて訓練しています。災害が発生した場合には各避難所に職員が駆けつける話を先ほど聞きましたが、市と学校と地域の3者が集まった話し合いがされていません。

○避難者をどう避難所に誘導していけばいいのか。学校の体育館だけなのか、それとも教室も利用できるのかなど、災害規模によって変わってきます。これまで具体的な話し合いはされていなかったので学校、地域、町内会の3者の話し合いを設定していただきたい。

○また、袖野田町の法務局の隣に空地がありますが、その使用目的をお聞きします。簡単なスポーツが出来るように整備していただきたいと考えております。

(総務部長)

○先ほどお話いただきました学校、町内会と連携するのは、防災訓練の際には職員が中心となってその場でのコミュニティづくりとして実施しておりますが、日頃からご指摘のあった話し合いはしておりませんので、災害の大きさに応じて、どのように対応するべきなのか今後検討したいと考えます。

○空地の件については、持ち帰って後ほど回答させていただきます。

(教育部長)

○塩竈市では、月見ヶ丘スポーツ広場を含め野外の施設で年間約83000人利用しています。スポーツ需要からいうと完全ではありません。各地域に空地が多々あり、それぞれ所有者と話をしながら工夫して利用している所もあります。支障がない限り、市民の方が利用できる環境になるように支援してまいります。

○現在、スポーツ振興計画の策定作業を進めております。地域の空地の利用を含め、皆さんと話し合いをもうけて、スムーズに使えるように環境を整えていきたいと考えています。

(町内会)

○友人が遊びに来た時、塩竈市で紹介する所は神社と魚市場しかない。神社の前の大通りが素晴らしいと褒められた。ただ商店街の活気については芳しくない。

○以前、広報誌で市の特別会計で決算において不足分を一般会計から繰り入れているのに、黒字と書くのはおかしいと考えます。実際には赤字ではないでしょうか。

○個人的意見ですが、ひとつの町内会で細々何かやるより、町内会どうしが集まり、まとまって行う方が良いと考えます。

(産業部長)

○観光振興について、資料の4ページにあるように「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」を行い、各方面に協力をいただいて、実績を残しました。新型インフルエンザなどの影響により宮城県全体でダウンしていますが、塩竈市においては仲卸、神社、マリゲートが観光誘客見込み数の対象施設になっていまして前年比より109%と観光客が増加しました。

○商店街の振興についても、行政だけでなく商店の方々に一人でも多く参加してもらえよう努力しています。一緒に市民の立場に立って会を盛り上げています。

(市長)

○先ほどの会計の話はその通りで、特別会計は独立しており、本来であれば年度ごとに黒字になるのが原則です。その中で一般会計から繰り出ししているものもありますが、国でも認めております。

○それは、市民の方々の健康促進などに寄与していることから、税金を投入してもお許しいただけるのはということで、繰り出しをしております。また、国民健康保険会計のように制度的なものもあり、利用者だけ負担では大変であり、国や県、市町村が一定割合で負担する制度で成り立っている特別会計もあります。

○例えば、魚市場会計は0.5%の水揚げ手数料で年間何千万円の収入で成り立つのが本来のかたちであります。100億円を超えれば収支均衡が図れますが、去年は漁獲規制の影響もあり83億円となり目標は達成していません。しかし、赤字のままにしておけないので、産業振興と市民の方々に食材を安定的に提供しているということで繰り出ししています。

○その流れで、会計が成り立っていることは広報誌でお知らせしていますが、過大な表現がありましたら、間違えた情報を伝えたことになってしまいますので注意してまいります。

○防災は大きな課題です。災害時には水道などのライフラインを率先して復旧する必要があり、市の職員も各家庭に対応するのは困難です。防災マニュアルを作って町内会での対応をお願いする部分もあります。

(町内会)

○他の市の広報誌を見る機会があり、塩竈市は26ページぐらいで、他の市は36ページもありました。いろいろな地域の情報を発信することや情報の共有化で全体の活性化になると考えます。広報の範囲が限定されていると考えます。協働推進室の連絡先などは広報誌の一番先に掲載されているべきです。情報の発信をもう少し考えて欲しい。

○広報誌の場合、表紙はひらがなで「しおがま」とかいてあるが、書類は「竈」の難しい字で書いてある。他から子供が来た時に古い漢字では小さい子供は、記憶に残らないと思います。港まつり、イベントなどに着るTシャツの「塩竈」のロゴは地元の人は良いが、他から来た人はあまり印象に残らないと思う。小さい子供にもわかるようにしてほしい。

(政策課長)

○広報誌は、16ページの中に様々な内容を盛り込んでおります。情報が増えている時は、予算を増やしてページ数を多くする予定です。「みんなの広場」という欄で市民活動団体や町内会を取り上げています。

○市民協働推進室の電話番号は裏表紙の下段に記載しております。また、文字の大きさを上げています。行政の話題だけではなく、町の話も取り上げていますので、ぜひご覧ください。また、ホームページにもいろいろ情報をアップさせていますのでご覧ください。

○「竈」の字の書き順は小学校の社会の副読本に載っています。交流センターのタイムシップの中に、「かまど」の字の書き順がわかるようになっています。「かまど」の字の由来を子供たちに伝えて愛着をもってもらうのもひとつだと思います。

(総務部長)

○以前、市民アンケートをした際に「竈」の字を大切に残していこうという市民の方の意向でしたので、今も難しい方を使用しているという経過です。

(町内会)

○文字を変えてくださいと言っているわけではなく、他から子供が来た時になるべく印象に残ってもらえるように、ひらがなにしたいのではないかという話です。

(総務部長)

○難しい字でも通用するようなまちになることが、私たちの役割だと考えます。子供たちに自信をもって難しい字を対外的に出してもらうまちを目指すべきですので、今後ご意見をいただきたいと考えております。

(町内会)

○観光パンフレットについて、塩竈市で紹介されているのは西町、本町近辺しかない、多賀城、七ヶ浜のパンフレットを見ると街並みだけではなくいろいろ案内されている。塩竈の観光資源が少ない。

(産業部長)

○行政として作っている塩竈市全体のパンフレットもありますが、どちらかというとお客様は青年4団体の民間の人たちが作成した「ぶらぶらりんマップ」の方を持って行きます。発行部数は年間 10 万部程度あります。

南部地区町内会連絡協議会との地区懇談会

1. 日 時 平成22年1月31日(日) 13:30～15:00

2. 場 所 東玉川公民館 図書室

3. 出席者

南部地区町内会： 17名(出席者名は別紙名簿のとおり)

塩竈市 : 市長、教育委員会教育長、総務部長、市民生活部長、健康福祉部長、産業部長、
: 建設部長、政策調整監、次長兼政策課長、市民生活部市民課長、
: 市民課協働推進室長、鈴木主査、報告者

司 会: 市民課協働推進室長

4. 議事

(1)開会

(2)市長挨拶

(3)会長挨拶

(4)地区懇談会

5. 出席者からの意見

(町内会)

○水産加工業で、一般加工が衰退している。気仙沼市や石巻市はまだまだ活発ですので、環境を整備して、若い方たちに魅力がある産業を考えて行くべきです。

○水産界も努力をしていると思いますが、石巻市で全国的に有名なかまぼこ店もあるので、塩竈市も安くて手っ取り早いだけではなく個性的な「かまぼこ」になるように。

○水産研究所などの支援をいただき、漁業や水産産業を考えていただければと思います。

○浦戸諸島の温暖な気候を活用した柿や果物、野菜といった生産などを県農業試験場など産業分野の協力を得ながら工夫していただきたい。まや、高齢者の働く、生産に携わる活躍の場を考えてほしい。

○本塩釜駅を基軸として様々な観光資源があります。さらには、北部の伊保石に夕日を眺めるような施設を検討して欲しい。政令都市仙台市を活かし観光振興をするよう提案します。

○財源は、住民から一定の資金を集めるなど、郷土の為の産業、観光を育成するための資金作りをし、NP
Oなど一定の公共的な内容での企業を発足させ、育成する方法があります。また、塩竈市だけでなく2市3町と連携した中で工夫をすることが必要と考えます。

○塩竈市の人口が減っているのは残念です。最近、塩竈市のニュースが年々少なくなってきたのが寂しい。その中で、高校生がまちあるきをしているということは、嬉しく希望が持てます。

○塩竈市は東北の発展のため行政課題を解消しながら、周辺の発展に寄与してきました。塩竈陸橋も過去に大きな役割を果たしてきましたが、今では地区住民にとっては、振動や騒音など危険性が年々高まっています。県に問題として取り上げてもらい早めに整備いただきたい。

(市長)

○本市の基幹産業である水産産業について、平成21年の水揚げも100億円を割り、83億円ぐらいで、厳しい環境です。様々な課題があり、マグロー辺倒の魚市場であったので大きな反省材料と考えています。

○今後の水産業のあるべき方向は、素晴らしい食材をいかに全国に発信していくかということです。

○「三陸塩竈ひがしもの」マグロブランドに取り組んでいま。以前この時期のメバチマグロは1キロ千円程度でしたが、ブランド化により3千円と倍以上の取引価格になりました。

○同様に水産加工品は、首都圏の給食センターから塩竈市の製品は高齢者をはじめ多くの方々にたいへん喜ばれるており、今後の取引継続の要望があります。

○地域情報の発信は大切な課題です。水産業を今後どう支えていくか、提案を踏まえ対応していきます。

○浦戸諸島の豊かな環境の活用ですが、海苔、牡蠣など他の地域に比べて美味しいと評価をいただいて

おります。菜の花づくりやフラワーアイランドという浦戸の花畑を定着させようと様々な取り組みをしている団体もあります。

○昨年の「仙台・宮城【伊達な旅】デスティネーションキャンペーン」では、首都圏から多くの方に来訪していただき好評でした。この取り組みを今後とも是非継続してまいります。

○第一次から第三次産業すべて悪戦苦闘の中で、観光の提案をいただきました。本塩釜駅を基軸とし、市内の各所に資産があるのではないかと話をいただきました。

○DCキャンペーンなどを通じて、マップを持ち市内を散策する方が年々増えてきました。第一次から第三次産業を組み合わせた第六次産業的で総合的な取り組みの中で魅力をPRすることが重要な課題です。本市は素晴らしい食材、魚や酒、菓子が沢山ありますので、それらの活用を考えております。

○財政は、着々と持ち直しています。市民債の活用という話ですが、一昨年、塩竈市でも「けやき債」を1億円発行いたしました。この資金を福祉、教育環境の向上などに活用しております。

○市内では様々なボランティア活動をいただいております、会長さんもNPOで活躍いただいておりますが、このような市民活動に市民債を活用しております。この活動を通じて、塩竈こそが日本で一番住みたいまちだと言っていただけるよう一層努力してまいります。

○塩竈陸橋の騒音対策については、過去にも試験的な取り組みをさせていただきました。今年度も騒音対策の工事を発注する予定ですが、この件については担当から説明いたします。

(建設部長)

○塩竈陸橋の振動について、道路は市道ですが、トレーラーなど重車両が多く通行しており、広域路線の役割を担っています。県道に移管する要望を続けていますが、実現までハードルが高い状況です。

○振動と重車両が多いという声が出ています。振動の発生要素はつぎ手にあると想定して、つぎ手の改善を平成17年頃から行い騒音を抑えようとしています。6箇所程度を今年も実施する予定です。今後も騒音を抑える事を継続してまいります。

○また、多賀城市から県道の玉川岩切線という道路が浮島まで整備されました。計画は塩竈市まで伸びてくる予定で、継続を要望しています。その流れの中で塩釜駅の周辺部に進めば将来的に連結されますので、ルートの設定と合わせて、塩竈陸橋についての解決策が見出せると考えております。

(町内会)

○市民の声を審議会に活かしていただきたいと考えております。市民参加の行動がこの計画で今後の塩竈市のまともづくりに大切なことです。

○第4次と第5次計画の課題は同じようですが、なぜ10年間の中で問題が解決出来なかったのか、計画が実現できなかったのか反省し、活かしてほしいと思います。

○共通した課題があるようですので、これからは縦割りではなく縦横無住の総合的な政策システムが大事になります。それにより財政の健全化、費用をかけないで総合的な実施により、実現可能が早まると考えます。

○第4次計画の「海・食・人がいきるまち」はここで切らないで、第5次計画に繋げていただきたいと思っています。

○産業、観光の分野は単発ではなく、松島を除いた1市3町に観光のルートを作って。それにより交流できますし、それが地域の活性と同時に産業にも連動するような連携を構築していけばと考えます。

(総務部長)

○いただいた意見は、まとめて皆様に報告させていただきます。また、総合計画審議会などで審議をいただき、市議会においても議決をいただくなど有意義に活用させていただきます。

○現計画で成果が見られなかった部分を反省し、次期計画に活かしていくことについては、各地区町内会の皆様から同様の指摘をいただきました。資料1で現計画の総括からの課題も改めて再認識し、作業している所です。これからも反省点を踏まえた計画を作成していきたいと考えております。

○総合的視点からの政策づくりの意見をいただきました。行政は縦割りという指摘ですが、市民懇談会に出席して話を聞いていましたが、本市は市民の皆様が多方面にわたる取り組みを他のまちよりも先進的にやっていることを改めて認識しました。

○それらが単発ということもあり、結びつける場を考える必要があるということを議論していただきました。そ

のことを十分今回の計画の中に織り込んだ実効性のあるものにしてきたいと考えております。

(産業部長)

- イベントが単発ではないか、それから広域ルートを作成し観光の連携を図るべきという話がありました。
- 資料3の4ページに年間の事業(イベント)を掲載していますが、かなり回数です。それは、行政だけではなく市民や各団体関係の方々が実行委員会を組織し、継続的に実施していくことを確認しながら年間を通じて実施しています。
- 「しおがまさま神々の月灯り」など春秋と年2回、青年四団体を中心に実施しています。「駅長オススメ小さな旅」は、まち歩きの観点の事業であり最高人数で30名ほど集めて、2市3町と連携をしています。
- このような事業を今後も数多く実施していきたいと考えています。観光振興だけではなく、まちあるきで商店街や水産業の振興にも結びつくように、努力していきます。

(町内会)

- 地域医療の充実について、市立病院の取り組みがありますが、経営状態が悪いと聞きます。市立病院の財政状況や再建の見直しをお聞きします。
- 中の島公園は高潮や台風の際に、海水がフェンスを越して歩けなくなる。植樹された桜の木も枯れていることから何か対策を考えていただきたい。
- 本塩釜駅周辺のガード下に高い防潮堤が新しく出来ました。先日、東屋の休憩場のイスに座ったところ、塩釜港や千賀の浦が見えず壁だけ見える状態です。もう少し見晴らしが良くなるように高くしてほしい。

(政策調整監)

- 市立病院について、苦勞してきたのは医師の確保です。5年ほど前に臨床研修制度が始まり、自分の専門的分野だけでなく、幅広く診察できる医師を養成する目的で2年間は臨床研修を義務化されました。この結果、市立病院も10名ほど医師が減り、赤字も増えました。
- 市立病院だけでなく全国的な問題であり、国もその間の赤字は長期借入に転換することを認め、累積赤字21億円のうち14億円を10ヵ年の返済の借入に切り替えました。残りは病院改革で返済していくことで頑張っています。
- 総合診療室を設置し、待ち時間の少ない効率的な診療体制を構築し、救急医療も努力しています。さらに4月から公営企業法を全部適応することで準備しています。平成21年度は4千万から5千万円の黒字と見込んでいます。医療の質を高めると同時に経営の体質を高めていく努力をしていきたいと思えます。

(建設部長)

- 中の島公園について、高潮被害の際に郵便局側まで被害が生じることが大きな課題です。対策として貯留管を設け、対策を講じてきました。しかし、水路の管理は県であることから、かさ上げをお願いしながら対応してまいります。
- 千賀の浦緑地についてですが、地盤沈下防止のため今年一定の整備を行いました。東屋は数年前に寄附を受けましたが、一方で防潮堤の整備はその後に行われ、津波対応の高さが決まっておらず、それで見えなくなりました。
- 整備の目的は、海に親しんでもらう事や本塩釜駅からマリゲート塩釜まで歩いていただくということです。東屋の外側にフェンスが残っていますが、防潮堤が出来たことにより必要性が薄れているので取り払ってより海に近い空間にし、高めに土盛りするなどの検討をしております。

(町内会)

- マリゲート塩釜でイベント実施の際、古川と提携していますが、なぜ多賀城市や七ヶ浜町にも呼びかけしないのでしょうか。

(産業部長)

- 古川の「八百屋市」の実行委員会とマリゲート塩釜で交流があり、イベントの時はお互い行き来をしており、秋の「塩竈の醍醐味」や5月の連休の時などに年に2回来ています。
- 多賀城市や七ヶ浜町もそれぞれ独自でイベントなどを行っていると思えます。古川と塩竈の商工会議所

の交流から始まったものと聞いており、それが継続してきました。

○山の方が海の方に来てやりたいと要望がきているのは確かです。昨年は栗駒市の災害がひと段落したということで、その地区とも交流しています。